

平成 29 年度 オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報

概況

歩留不良への警戒が必要な海域があります。本年度は春先の餌料環境はやや不良であり、底層の低温傾向も観測されましたが、海域による差が大きい傾向が見られます。

海域：オホーツク総合振興局管内東部海域

レベル：1

短期、長期にわたり歩留不良の可能性が低い。

予報期間：平成 29 年（2017 年）6～7 月（短期）

発生確率：0.00～0.04

予報期間：平成 29 年（2017 年）6～10 月（長期）

発生確率：0.04～0.08

海域：オホーツク総合振興局管内西部海域

レベル：3

短期、長期にわたり歩留不良の可能性が高い。

予報期間：平成 29 年（2017 年）6～7 月（短期）

発生確率：0.83～0.90

予報期間：平成 29 年（2017 年）6～10 月（長期）

発生確率：0.75～0.80

警戒レベル	意味
1	発生確率が極めて低い
2	発生確率は短期でやや高く、注意が必要
3	発生確率が高水準であり、警戒が必要
4	発生確率は最高水準にあり、十分な警戒が必要
5	広域・長期にわたり発生確率が高く、全域で十分な警戒が必要

注：貝柱歩留不良予報は、4、5 月の 4 つの観測値、最大平均貝柱歩留、最大貝柱グリコゲン濃度、最大クロロフィル濃度、最大海水温差（最高水温－最低水温）から、6、7 月の短期と、6～10 月の長期の貝柱歩留不良を統計的確率モデルで予測しています。